

Lynzo

りんぞー

Library for Your Networking ZOne

vol.7

巻頭特集
座談会

フューチャー・ザ・清盛

解説
特集
コーナー

古事記と日本書紀

Lynzo
名画座

『夜の大捜査線』

先生が選んだ
この
一冊

『魔女の血をひく娘』

瀬邊啓子先生



佛教大学図書館
〒603-8301
京都市北区紫野北花ノ坊町 96
電話 : 075-491-2141 (代)
FAX : 075-493-9042

フューチャー・ザ・清盛

ホント —平清盛の真実—

古代から中世へ、貴族の世から武士の世へ……、末法思想が蔓延し、既成概念が覆されていく時代の変革期。

平安時代末期は教科書で読むだけでは想像できないほど大きな変化にさらされ、誰もが先の見えない混沌とした世の中を、漠然とした不安を抱いて生きていました。

そんな未曾有の時代を生き、その後650年以上続く武士の世が生まれる契機を作った人物こそ平清盛でしょう。

今回は、新しい時代を見据えながら混沌の時代を生きた清盛とその時代について、歴史学部歴史学科教授・今堀太逸先生と歴史学部の学生に語り合っていたいただきました。



歴史学部
歴史学科 3 回生
星 優也さん

歴史学部
歴史学科 2 回生
國原健司さん

歴史学部
歴史学科 2 回生
小川 健さん

歴史学部
歴史学科 3 回生
羽賀 睦さん

歴史学部
歴史学科
今堀太逸教授

今堀先生 ● 日本史上、最も有名な武士の一人にあげられる平清盛。みなさんは彼にどんなイメージを持っていますか？

小川さん ● 平氏の棟梁で、朝廷にも強い影響力を持った人……かな。でも、子どもの頃に読んだ『学習まんが 日本歴史』での描かれ方のせいか、かなり悪人のイメージがありますね。

星さん ● 貴族が低くみていた武士という身分を歴史の表舞台に立たせ、認めさせた人でしょうか。武士として初めて太政大臣にまで昇りつめたことは、すごいことだと思います。

羽賀さん ● 情報収集能力に長け、情勢を読む力や判断力も持ち合わせていた人だと思います。でも当時の常識ではタブーとされていることを合理的判断でやってしまう所はリアリストであり、ずる賢かったんだらうなと思います。とくに保元の乱での夜討ちや平治の乱での陽動作戦とか。個人的にはそんなところが可愛いと思っているんですが(笑)。

平清盛ってどんな人？

Lynzo^{vol. 7}
Library for Your Networking Zone
りんぞー

- 1 巻頭特集 座談会「フューチャー・ザ・清盛」
- 4 解説 特集コーナー「古事記と日本書紀」
- 6 Lynzo 名画座 『夜の大捜査線』
- 9 先生が選んだこの一冊
『魔女の血をひく娘』 瀬邊啓子先生
- 10 さぶかる！ 『なつかしの小学校図鑑』
- 12 小説を旅する 森鷗外『山椒大夫』
- 14 四季を読む — 京洛の春 —
- 15 読んだら面白かった！ 『コスモポリタNZ』
- 16 Pop up lib 特集コーナー
- 17 開館カレンダー

Whisper
本のささやき

彼は適応した。それだけのことだ。

ジャック・ロンドン『野生の呼び声』

主人公のセントバーナードとシェパードのハーフ犬のバックは、生まれたときから、アメリカの大きなお屋敷で贅沢に暮らし、王様のように振舞ってきました。バックが4歳のとき、北極圏で金鉱が掘りあてられ、その地域へ荷物を運ぶ犬として、屋敷内の小悪党に売り飛ばされます。生活は一変、食事もほとんど与えられず、暴力をもって重い荷を運ばされる生活を送ることになります。厳寒の自然のなか、ほかの犬たちとの権力闘争を繰り返すうちに、彼は身体に眠っていた野生に目覚めます。この作品ではバックをまっすぐに犬として描き、擬人化していません。しかし、読者はバックの姿に運命に翻弄される「人」を見て、その生き方に感動するのです。

ジャック・ロンドン
1876年誕生。アメリカ合衆国の短編作家。日露戦争の取材で来日したこともある。主な作品は『白い牙』。

國原さん●貴族化して、思い上が

る姿は武士っぽくない気がします。

今堀先生●なるほど。可愛いという変わった意見まで出ましたが、全般的にあまりいいイメージは持っていないみたいですね。たいいていの人はそうでしょう。では、あらためて清盛についてみんなで検討してみましよう。

平清盛の生きた時代

今堀先生●まずは清盛が生きた時代を考えてみましょう。当時は院政が敷かれていました。院政は天皇が讓位して、上皇として政治に関わる政治形態のことですよ。なぜ、そんな形態が生まれたのでしょうか？

羽賀さん●元々は皇位継承問題の解決と、上皇が権力を掌握するためだと思います。現天皇が次の天皇

と皇太子を指名して讓位すること

で、安定した皇位継承をアピールし、

政治の乱れや停滞を阻止したかったのではないのでしょうか。あとは、天皇を指名することで上皇に権力が集中しやすくなったでしょうね。

星さん●天皇の地位は神聖なため、世俗的な権力闘争や土地争いに直接的に関わることができませんでしたが、上皇になるとそれらにも介入でき、政治的にも経済的にも大きな影響力を持てるようになるからでしょうか。

今堀先生●それでは、上皇が権力を持つことで、政治はどうなったのでしょうか？

小川さん●独自の執政機関を作り、身分に関係なく人材を登用したので、藤原氏中心の貴族社会では頭角を現せなかった人々が力を発揮することができました。

國原さん●上皇は、院宣という文書で命令を出すことによって、経済基盤として全国にまたがる院領莊園を確保し、その

莊園内にいた武士もまた上皇の有力な

武力源としたの

ではないでしょうか。

今堀先生●そのとおりです。とくに

清盛の祖父・平正盛は白河院の皇女の菩提所に領地を寄進して、上皇の近臣となります。父・忠盛も領地の寄進をきっかけに武士で初めて殿上人となり、中央政界へと躍進しました。これらの財政の基盤は日宋貿易の独占によって得られたものです。さらに武力を背景に警察権・軍事権を握り、反乱を鎮め、天皇や朝廷に奉仕することで、信頼を得、平氏は都でいっそう存在感を強めたのです。

今堀先生●一般に清盛のイメージは、非情で権勢をほしいままにし、おごり高ぶったあげく、原因不明の高熱で死んでいった人物ですね。そしてその末裔は、ライバルである源氏に滅ぼされてしまふ。悪役・平氏に対して、正義の一族・源氏、という構図です。しかし、そのようなイメージがなぜ定着してしまったのか不思議ではありませんか？

小川さん●経済面、政治面、武力面において上皇を支えることで、平氏が力をつけたということだったんですね。

羽賀さん●ライバルの源氏もそうやって力をつけていたのですか？

今堀先生●源氏には、平氏のような経済基盤がありませんでした。そのため、この時点で源氏の力は

平氏とは雲泥の差だったと考えられます。



しょう。『平家物語』は栄枯盛衰や因果応報という仏教思想に基づいて創作された物語で、史実ではありません。

しかし、制作された時代から現在に至るまで多くの人に受入れられた結果、そこに記されたものが事実だと誤認されていることも多いのです。

めだけに清盛は悪人として描かれたのですか？

今堀先生●政治的な意図も大きいでしょう。貴族の支配から武士の支配に変わる過渡期に政権をとった源氏が、支配の正当性を主張するツールとしても活用したことは想像に難くありません。つまり、極悪非道の清盛を滅ぼした源氏が、この地を支配して平和を保持する、という根拠に利用されたのです。

りますか？
小川さん●教科書によく載っている僧形の清盛像ですね？

羽賀さん●『平家物語』は、平氏の人々への鎮魂のために作られ、広まったと聞きましたが、なぜ、清盛が悪く描かれる必要があったのでしょうか？

今堀先生●当時は、この世へ未練を残して死んだ人間が、現世に災いを起こすと考えられていました。だから「壇ノ浦で滅びた平家の武将が怨霊になって災いを起こすのでは？」と当時の人々は恐れしました。そこで、平氏が滅んだのは、古今の悪人の中で最悪である清盛の業が一族郎党までに及んだからだと考えたのです。そして、唯一生き残った建礼門院が平氏一門の菩提を弔ったこと、そして彼女自身が往生できたということを「灌頂の巻」に記して鎮魂したのです。

多方面からのアプローチで真実に迫る

今堀先生●清盛に関する古文書は少なく、本当の清盛像を探るには文献を追うだけでは難しいでしょう。中世考古学からのアプローチや平家納経などの美術品も研究材料として、清盛像を解明する必要があります。たとえば、六波羅蜜寺にある平清盛像を見たことがあ

は悪人として描かれたのですか？
今堀先生●政治的な意図も大きいでしょう。貴族の支配から武士の支配に変わる過渡期に政権をとった源氏が、支配の正当性を主張するツールとしても活用したことは想像に難くありません。つまり、極悪非道の清盛を滅ぼした源氏が、この地を支配して平和を保持する、という根拠に利用されたのです。

國原さん●今まで清盛は傍若無人で短気で自分以外に興味ない非情な人間だと思っていました。それは、平家物語ベースの脚色をされた清盛だったんですね。実際どんな人間だったのか知りたくなりました。

今堀先生●史料にこだわって研究を進めると、どうしても見えなくなる面があると思います。とくに滅亡した一族について調べるには、偏った史料しか残っていません。客観的な視点と多面的な情報収集力を磨くことで、文字以外からの情報も利用でき、当時の社会情勢や文化を理解した上でさまざまな面白い発見に出会えると思います。そして、多くの情報から紡ぎ出した結論こそが、限りなく真実に近いものになるのではないのでしょうか。

古事記と 日本書紀



平成24(2012)年は、飛鳥から奈良に都を遷して二年後の和銅5(712)年に『古事記』が撰上されてからちょうど三〇〇年目に当たります。これにちなむ記念事業が様々な企画されているようです。その一つ、奈良国立博物館と古事記学会との共催による「古事記の歩んできた道——古事記撰録二三〇〇年——」と題する特別陳列が、6月16日から一カ月間、奈良国立博物館を会場に開催されます。

そこで、古事記学会や上代文学会の理事でもいらつしやる榎本福寿先生に、成立から二三〇〇年経った古事記をめぐる魅力や今日の課題などについてお話をうかがいました。

——わたしたちは古事記という書名は聞いたことがあっても、その中身はあまり知りません。古事記とはどんな書物なのですか。

古事記は、序文のなかにその内容の概要や成立の経緯などについてみずから詳しく語っています。それに

よれば、天武天皇の「勅語」をうけて^{ひえだの}神田阿礼の「誦習」した記録を、後の元明天皇の命により^{やすまろ}太安万侶が「撰録」して「献上」したというものです。飛鳥から奈良時代にかけて律令国家を整備するなかで、その国家意思を具現して誕生します。

内容も、天皇の歴史が中心です。上巻がその天皇の始祖を始めとする神々の世界、中巻が初代神武天皇に始まる天皇および人と神との世界、下巻が天皇の世界をそれぞれ伝えています。いわば天皇の存

在やその国の統治の歴史を始源に遡って解き明かし、正当化するところにねらいがあります。もちろん、単に資料、伝承の類の寄せ集めなどではなく、表現も構成も実によく練り上げられています。古事記の真骨頂も、むしろその点にあります。

たとえば、上巻の始めにイザナギ、イザナミという夫婦二神が結婚し国を生みます。この世界の創造を、超絶的な万能の神ではなく、あくまで人間がモデルの神が担っているのです。人間がモデルですから、火神の出産により妻が死に、その死を悼み黄泉(死後の世界)まで追うというように、さながらこの娑婆世界を反映した物語が展開します。実は多様な多彩な絵柄をとおして神々の世界を統一的、体系的に描くことそれ自体に専ら関心を寄せているかのようです。また中巻では、神と人との交渉を、中国伝来の[※]志怪小説という怪異の物語をもとに脚色した伝承が異彩を放っています。下巻になると、冒頭に位置する仁徳天皇の時代を「聖帝の世」として儒教的聖天子の統治になぞらえ理想化します。その一方、激情に駆られた兄妹婚を、

唐の律が規定する内乱(姦通罪)にそくして描いてさえています。仏典も含め、中国から舶載した典籍を自在に活用するその創作手腕や文学性の高さは、本当に驚くばかりです。

——先生のお話は、従来の古事記に対する一般的イメージとは大きく異なっているのではないのでしょうか。それでは、古事記の撰上から8年後の養老四(720)年に日本書紀が成立しますが、こちらの方についてはどのようにお考えですか。

日本書紀は歴史書です。中国の史書の体裁をおおむね踏襲しています。しかし、古代中国では、個人の伝記を中心に構成する紀伝体

の歴史記述を『書』、また年月の順を追って記述する編年体のそれを『紀』と称するのが通例です。日本書紀三十巻のうち、巻一、二は神話、巻三以降の天皇の歴史記述に編年体を採用していますので、中国史書の例に照して変則的です。その上、神話を伝える巻一、二のいわゆる神代紀は、全部で十一段から成り立っていますが、各段ごとに本伝とその異伝をつたえる一書とを組み合わせています。この構成や組み合わせも、極めて独特です。

いまこの神代紀についていえば、通説では、一書を、日本書紀の編纂時に実際に存在した文献とみまします。その文献の記述を各段ごとに割り振り、それを一書として本伝に組み合わせることにようになりますので、逆に、各段を通して同じ表記の一書を辿っていけば、もとになった文献が復元できるはずだとして、実地にそれを試みた論文があります。誤りですが、一つの有力な学説となつていいます。

——それでは、そうした神代紀と古事記との関係ですが、独自なお考えがありますか。

日本書紀のいまお話しした歴史記述を成り立たせる背景には、中国史書の「述べて作らず」という大原則があります。歴史をそのあるがままに伝え、そこに嘘作を交えないというのですから、一書でも数多く伝える、そうしていかにも中国史書らしい体裁をとるのです。古事記は、これとは対照的に、多様より統一をめざしています。神代紀に古事記の上巻がほぼ対応しますが、本伝と一書とを組み合わせた多様な歴史の逆を行く、天皇の始祖を中心とした神々の歴史として統一的、体系的に収斂させたところに、古事記のそれこそ並々ならぬ意志を感じます。そしてまさにその意志こそが、古事記の達成度の高く、文学性の極めて豊かな所伝に結実したはずで、一三〇〇年の節目となる今こそ、この古事記を積極的に再評価すべきではないでしょうか。各種記念事業が、古事記を現代にあらためて生かすその機会となることを念じています。

■注釈
※中国の六朝時代に、怪異に関する話を記録した短編小説類「搜神記」など



えのもと ふくじゅ
榎本 福寿 [文学部 日本文学科教授]

1948年、埼玉県生まれ。国学院大学文学部卒業、京都大学大学院文学研究科国語国文学専攻博士課程満期退学、北京大学高級訪問学者(2001)、東京大学大学院私学研修員(2009)。専門は上代文学における和漢比較研究。

Lynzo

名画座

夜の大捜査線



夜の熱気の中で
冷たい汗がにじむ
夜の熱気の中で
なぜか心細い
星は冷たく瞬き
意地悪な目で見つめる

アメリカ南部、ミシシッピ州の田舎町スパータ。乗り継ぎのために、夜行列車から降りてきた刑事が、見知らぬ街で殺人事件に巻き込まれてゆく。

深夜のパトロール中に、路上に倒れていた男を発見した巡査のサム・ウッド（ウォーレン・オーツ）は、それが死体であることがわかり驚く。彼の連絡で、現場にやってきた新任署長のビル・ギレスビー（ロッド・スタイガー）は、町の医者やカメラマンを使って現場検証するのだった。

殺されたのは、町に工場を建設するためにやってきたコルバートで、撲殺され財布や所持品は奪われていた。目撃者もなく、ヒッチハイカーの犯行と考えた署長は、サムに駅やビリヤード場を調べるように命じる。駅にやってきた彼は、そこにいた黒人男性に不信を抱き、身体検査をする。男の財布に大金が入っていたことから、サムは男を犯人と思い込んで警察署に連行した。

男はバージル・ティップス（シドニー・ポワチエ）と名乗り、列車の時間待ちをしていたと説明するが、黒人に偏見をもっている署長は、最初からバージルを犯人扱いして尋問をはじめた。彼は所持していた大金の出所を尋ねた署長に向かって、フィラデルフィアの警察官であることを説明し、身分証明書を見せるのだった。

バージルの身元を照会した署長は、その上司から捜査協力の申し出を受け、彼が殺人課のベテラン刑事であることを聞かされる。そして署長は協力を拒否するバージルに、声高に殺人事



件は自分の専門外だから、検視に協力するように求める。

検視結果をもって警察署にやってきたバージルは、そこでコルバート夫人（リー・グラント）に会う。夫を捜す彼女に、コルバートは殺害され、犯人は不明だと告げる。そこへ容疑者ハーベイが連行され、署長は盗まれた財布を証拠に彼を犯人と決めてかかる。しかし、ハーベイの腕を触って左利きだとわかったバージルは、犯人は右利きなので彼は無実だということを説明する。ところが、そのことが気に入らない署長は、今度はバージルがコルバートの検視結果を渡さないことを理由に、彼まで留置場へ放り込む。

留置場でハーベイから犯行時刻のアリバイを確認したバージルは、コルバートの殺害現場が別の場所であることを署長に告げる。それを聞いても黒人を偏見の目で見る彼は、バージルを町から追い出そうとする。しかし、コルバート夫人から、犯人を逮捕しなければ工場建設に必要な技術者を引き揚げさせると言われた市長は、署長に向かってバージルを使って捜査をさせるよう指示する。

駅で列車を待っていたバージルは、署長から頼まれて少々捜査に協力することになった。町へ戻った彼は、コルバート夫人を訪ね、綿花会社を経営する町の有力者エンディコットが工場建設に反対していたことを聞かされる。コルバートの乗用車を調べた彼は、シートに血痕が付着していたことから、犯人がこの車で死体を運んだことを確信する。そして、ブレーキに付

いていたシダの根を見つけた。
エンディコット邸を訪問したバージルと署長は、温室でエンディコットから、蘭の栽培に使うシダの根を見せられるのだった。

黒人に偏見を持つばかりか、思いこみによる誤った捜査を繰り返す署長との確執のなかで、バージルは犯人にたどり着けるのだろうか。

原作はアメリカ探偵作家クラブ新人賞を受賞したジョン・ボールの『夜の熱気の中で』。この作品は第40回アカデミー賞作品賞、主演男優賞、脚色賞、音響賞、編集賞の5部門を受賞しており、監督のノーマン・ジェイソンは『華麗なる賭け』（1968年）、『屋根の上のバイオリン弾き』（1971年）など数多くの名作を手掛けています。

バージル役のシドニー・ポワチエは、『野のユリ』（1963年）でアカデミー主演男優賞を受賞し、この作品の後も『いつも心に太陽を』や『招かれざる客』（いずれも1967年）で好演しています。頑固なグレスビー署長を演じたロッド・スタイガーは、この作品でアカデミー主演男優賞を受賞。『ドクトル・ジバゴ』（1965年）や『ワテロー』（1970年）などでも味のある演技を見せています。

全編を流れる音楽は、クインシー・ジョーンズの作曲によるもので、彼はマイケル・ジャクソンのアルバム『スリラー』を大ヒットさせた音楽プロデューサーとしても有名です。ま

先生が選んだ
この一冊

『魔女の血をひく娘』

本書との出会いは、講義で読んだ中国の児童文学のなかに本書の中国語タイトル「女巫」（原題 Sorceress、2002、邦題『魔女の血をひく娘・2』）が挙げられていたことによりです。ところが読んでみると、予想外に面白かったのです。

本作はフィクションでありながら、歴史のなかに埋もれた人物を掘り起こし、その足跡をたどること、イギリスおよびアメリカの正史には描かれない「影」の歴史が描かれています。それは、まるですべてが本当にあった出来事であり、実在した人物であるかのような錯覚すら覚えるほどです。

そこには魔女狩りに始まり、アメリカへの入植者たちの生活と入植者を受け入れる側であったインディアン（ネイ

このページで紹介した映画『夜の大捜査線』と
原作『夜の熱気の中で』は図書館に所蔵しています。

また、映画は
20世紀フォックスホームエンターテイメントジャパン株式会社の
佐藤一公氏字幕翻訳を使用しました。

夜の大捜査線 スタジオ・クラシック・シリーズ
DVD 発売中
¥1,800(税込¥1,890)
20世紀フォックス ホームエンターテイメント ジャパン
(C)2011 Metro-Goldwyn-Mayer Studios Inc. All Rights Reserved.
Distributed by Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC.



た、テーマ曲を歌っているのはR & Bの大神所レイ・チャールズで、「ホワット・アイ・セイ」（1959年）、「わが心のジョージア」（1961年）や「愛さずにはいられない」（1962年）などのヒット曲は、テレビCMでお聞きになった方も多いでしょう。

今回の余談は、刑事を主人公にした原作をもつ映画についてです。とくに、『夜の大捜査線』を境にして、1968年はピーター・イエーツ監督『ブリッド』（主演ステイプ・マクイン、原作ロバート・L・パイク）、ドン・シーゲル監督『刑事マディガン』（主演リチャード・ウイドマーク、原作リチャード・ドハティ）、同監督『マンハッタン無宿』（主演クリント・イーストウッド、原作ハーマン・ミラー）、ゴードン・ダグラス監督『刑事』（主演フランク・シナトラ、原作ロデリック・ソープ）といった名作が登場し、1971年には、ウイリアム・フリードキン監督『フレンチ・コネクション』（主演ジーン・ハックマン、原作ロビン・ムーア）という、今までの刑事映画にはなかった傑作が製作されます。

これらの作品には、1980年代後半から製作された『リーサル・ウェポン』シリーズや『ダイ・ハード』シリーズのような派手なアクションはありませんが、その後の作品に大きな影響を与えた要素がたくさん含まれています。一度ゆっくり観てください。

タイプ・アメリカン）のたちの文化・習俗が克明に描かれています。また異能力を持つということ、いかに尊敬と畏怖をもたらし、後者が勝ったときコミュニケーションがどのようにして対象者を「迫害」してゆくのが、多面的に描かれています。民族間の差異であっても、自分たちと「異なる」ことが許容されない——理解できない対象への畏怖は、ときに人を攻撃的にします。それが普通の人であつても、です。

この作品はあくまで「歴史」の一部として描かれ、現代を生きる作中人物たちによる「調査」の過程をたどること、読者もメアリーというイギリスからアメリカへ逃れてきた入植者の人生をたどってゆくことになります。前半部はメアリーがキルトのなかに隠した日記から、後半部はアグネスというメディスン・ウーマンの力を持つモホーク族の女性がメアリーの人生を追体験してゆくことで、メ



瀬邊 啓子先生

（文学部中国学科 講師）

京都府生まれ。大阪大学大学院言語文化研究科言語文化学専攻博士後期課程修了。言語文化学博士（大阪大学）。専門は中国現代文学、言語文化学。

著者：セリア・リーズ
（亀井よし子 訳）
発行：株式会社新潮社



サブカルチャー
de
読み解こう部

さぶかる!

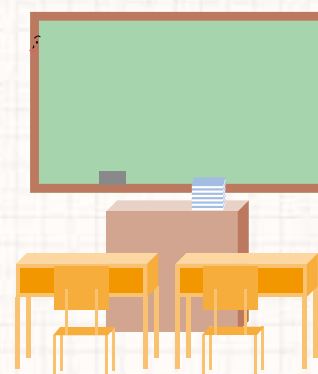
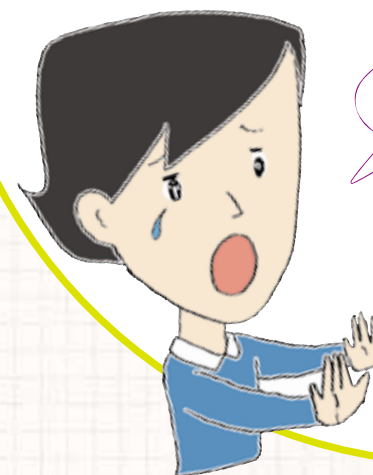
なつかしの小学校図鑑

最近流行している本や作家、印刷メディアや表現手法。いろいろありすぎて「知りたいけど、調べてもよくわからない!!」ってことがあるよね？
私たち「さぶかる」では、そんな好奇心や疑問を解消するべく日夜活動してま〜す。

またあの二人、
なつかしい遊び
してるわね。

罰ゲームは
“しっぺ”だよ!

ええっ!!
イヤだよ~~!



その当時の小学校は、一体どんなものだったのでしょうか……？
それをかい間見られるのが『なつかしの小学校図鑑』です。

小学校といえは、小さい机やイス、黒板横の掲示板に貼られた給食当番表、校庭にたたずむ二宮金次郎の銅像などを思い出す人が多いのではないだろうか。毎日、一生懸命遊び、学んだ校舎の風景は、懐かしさに溢れています。

小学校は、明治2年、京都の町衆が教育に情熱を傾け、「番組小学校」を創設したのが始まりとされています。その後、全国に設置されていき、戦前戦中に様々な改正や改編を加えられ、現在の小学校の形になったのは1947年のこと。

誰もが胸に秘める
懐かしい日々

『なつかしの 小学校図鑑』

昭和20年代中頃から30年代初頭にかけての小学校。戦後からの復興を目標にかかげ、高度経済成長期に向けて突き進む日本のなかで、小学生たちはたくましく精一杯日々を生きていました。

まだまだ物資の乏しい時代、自分の周りにある文具を工夫し、遊び道具を作って子どもたちは遊んでいました。その後経済が豊かになるにつれ、徐々に現れる新しい文具や教材。子どもたちは、画用紙いっぱいにかラフルに広がる水彩絵の具やクレヨン、文字を消すためのだけの文具ではない、いい匂いのするフルーツ消しゴムなどに夢中になりました。それらは、小学校生活に華やかな彩りを与えました。

そして、足じゃんけん、足かくん、馬跳び、輪ゴムピストルなどのたわいない遊び。『なつかしの小学校図鑑』では、実際にそれらの遊び方も書かれています。体験した人にはたまらなく懐かしく、体験していない人でも刻明なイラストを見て楽しめます。

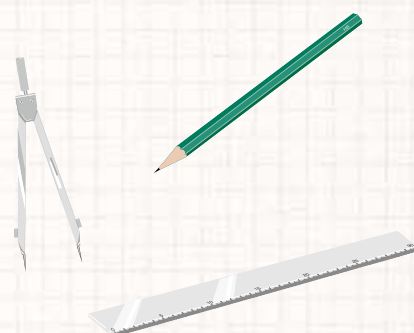


今、見直される 昭和時代

世界大恐慌、第二次世界大戦、終戦、高度経済成長。激動の昭和という時代を生きた力強い人々。『なつかしの小学校図鑑』にもあるように、子どもも大人も毎日を楽しんでいる姿は、古き良き時代の日本の象徴であり、現代の日本人が失ってしまったものなのかもしれません。

そうした思い出を分かち合う場として、その頃小学生だった大人たちが今に蘇らせたものが、給食居酒屋や給食力フェといった文化です。給食という思い出をとおりて、昔を懐かしみ共感し合う空間が、大人たちの間では人気を博しています。

本書にあるようなアナログ的な生活を現在の小学生がすることは今後もないでしょう。塾やゲームとかけ離れていますから……。簡単には戻らない昔の風景だからこそ、本書の小学生像が輝き、私たちはいとおしく感じるのです。懐かしさと、失ってしまった寂しさもいっしょに。



『なつかしの小学校図鑑』

筑摩書房、2011/10/10
奥成 達 (文) / ながたはるみ (絵)

文・奥成 達 (1942年~)

東京都品川区大井出身の詩人、ジャズ評論家、著述家、漫画原作者、編集者、作詞家、トランペット奏者。東京都立城南高等学校卒業。雑誌記者、タウン誌編集長などを経て、現在は青山学院大学文学部講師。さまざまな種類の活動とおして、日本のサブカルチャー界に、広い人脈を持つ。ながたはるみ氏とコンビを組んだ『遊び図鑑』(福音館書店)はロングセラーになっている。

絵・ながたはるみ (1944年~)

長崎県出身。イラストレーター。エッセイスト。奥成達は夫。『植物あそび』『母さんの小さかったとき』(福音館書店)、『野外の遊びゲーム百科』(主婦と生活社)、『自然遊び 12 か月』(小学館)、『風景画集』(葉山情景) (そしえて)などの著作がある。



小説を旅する

第一回

森鷗外『山椒大夫』

森鷗外（もりおうがい）
（1862年〜1922年）



『山椒大夫・高瀬舟』
新潮社／改版（2006/06）

書物の魅力のひとつは、古今東西、さまざまな人と出会ったり、あるいは知らない時代や、行ったこともない世界に行くことができることではないでしょうか。このコーナーでは、小説の舞台になった場所を訪れ、主人公たちがたどった道を、みなさんと一緒に旅します。

大正4（1915）年1月に『中央公論』に発表された森鷗外の「山椒大夫」。これは、中世の説経節である「さんせう太夫」をもとに書かれた作品です。

時は平安後期、離れて暮らす父親と音信不通になったため、母、娘の安寿、息子の厨子王、女中の4人は故郷の岩代の信夫郡（福島県）を出て、父のいる筑紫（九州地方）に向かって陸路を旅していました。

越後国春日まで来た時、日暮れになり宿を取ろうとしましたが、その土地では悪い人買いがいるので旅人を泊めてはいけないうと国司から命令が出されていたのでした。仕方なく野宿をしていると、4人の前に山岡大夫と名乗る船乗りが現れ、国司の命令に背いて家に泊めてくれるといいます。ありがたく付いていった4人は、一夜の宿を借り、次の日、山岡大夫の舟で越後を後にしました。

しかし、その山岡大夫こそが人買いで、他の人買いに4人を売ってしまします。同じ船に乗った母と女中は北の佐渡島へと連れて行かれ、別の船に乗せられた安寿と厨子王は、海路南へ連れて行かれます。二人はまだ小さい子どもで不健康そうなので買い手もつかず、結局どんな人間でも買う丹後の由良の石浦に住む大金持ちの山椒大夫のもとへと連れてこられました。ここから二人の奴隷生活が始まります。山椒大夫は海水から塩を作っていたので、安寿は、海へと冬の寒いなかを日に何度も海水を汲みに行かされ、厨子王は火をおこすための柴刈りに山へやられました。辛い毎日を送る二人は、寝る前に毎日のように「ここから逃げ出して、お父様のいる筑紫国へ行きたい」と語りあうのが、唯一の心の慰めでした。ある日、それを山椒大夫の息子に聞かれ、「逃亡する気が！ 逃亡を企てた者は額に烙印をするぞ」と脅されます。

その晩、二人は同じ夢を見ました。それは、山椒大夫に赤黒く焼けた十文字の烙印を額に押しあてられるというものです。夢の中で二人は、傷の痛みとショックでフラフラになりながら、自分たちの部屋に戻り、母から渡されたお守りのお地藏さまにお祈りするとみるみる痛みがひき、代わりにお地藏さまの額にふたつの十文字が刻まれました。そこで、目が覚めた姉弟は不思議な夢の話を語り、恐る恐る地藏像を取り出してみると、なんとその額には、夢で見たような十文字の傷が二つと刻まれていました。

その後、数ヵ月たったある春の日、安寿は山椒大夫の息子に「弟と一緒に柴刈りを仕事にしたい」と願って、許されます。次の日、仲良く山へ柴刈りに向かった姉は厨子王に「ここから都に近い。都まで逃げて、お父様とお母様と会いなさい」とお守りの地藏像を渡し、逃がそうとします。はじめ「嫌だ」と反発していた弟も姉の決意に負け、姉の告げた道を駆け出します。中山を越え、かくまってもらった和江の国分寺で、翌日、姉が入水自殺をしたことを聞いた厨子王は出家し、それでも都を目指しました。都にいった厨子王は、まず山城の朱雀野の権現堂で休んだ後、清水寺へと向かいます。清水寺で泊まっていたところ、娘の病氣平癒のため参籠していた関白・藤原師実（藤原頼通の息子）が「お前のお守りの地藏像に祈ればいいとお告げがあった。どうか、素性を教えて、その仏像を貸してくれ」と言ってきました。驚きながらも自分の身に起こったことを伝え、厨子王は地藏像を渡します。その本尊を祈ったところ、立ちどころに病気が癒え、喜んだ師実は厨子王を還俗させ、元服させるとともに役人として取り立てました。丹後国司となった厨子王は人買いを禁止し、山椒大夫にも使役している人に給料を払うよう命じたところ、一層の産業がさかんになりました。その後、厨子王は佐渡へと渡り、盲目になってしまった母親と再会を果たしました。

ルート
岩代の信夫郡（福島県福島市）

↓
越後国春日・直江津
（新潟県上越市）

↓
越中（富山県）

↓
能登（石川県）

↓
越前（福井県）

↓
若狭（福井県）

↓
丹後の由良の石浦
（京都府宮津市石浦）

↓
中山（京都府舞鶴市中山）

↓
和江（舞鶴市和江）

↓
山城の朱雀野（京都市下京区
朱雀裏畑町）の権現堂

↓
清水寺（京都市東山区清水）



丹後国由良・石浦／
如意寺（京都府宮津市）

越後国春日・直江津
（新潟県上越市）

岩代の信夫郡
（福島県福島市）

和江国分寺（京都府舞鶴市）

京都権現寺・清水寺
（京都府京都市）

和江から由良川を挟んで対岸にある安寿姫塚。厨子王が逃れた後、安寿姫も京都に向けて逃亡するが、疲労と空腹に耐えられず没した場所とされている。



権現寺（↑）如意寺（→）
どちらの寺にも厨子王の守り本尊とされる身代わり地藏尊が残されている。権現寺の地藏像には、説経節「さんせう太夫」で記されているように、山椒大夫の追手が厨子王の隠れている大きなつづらを怪しんで突いた槍の傷とされるものが胴のあたりに残っている。また如意寺に安置されている地藏像には、森鷗外が記したように額に傷跡が確認されている。



山椒大夫から逃げ出した厨子王をかくまった国分寺の跡

安寿と厨子王像



晩年には創作を離れ、『淡江拙著』をはじめとする史伝の世界に入っていく。『即興詩人』（アンデルセン作）や『ファウスト』（ゲーテ作）など翻訳の業績も名高い。

京都の春はやはり桜。花が終われば、新緑が目に見え、五月がやってきます。

日本画家の東山魁夷氏（1908～1999）は、生涯に数多くの作品を残しました。しかし、その業績は画業だけではなく、文筆活動にもあるといわれています。そのことは画文集の一冊『京洛四季』からも窺えます。この画文集では、春の冒頭に「花明り」（祇園夜桜）と題された作品（1968年）が掲げられ、数点の作品のあとに次のような一文が続いています。

円山

花は紺青に暮れた東山を背景に、繚乱と咲き匂っている。

この一株のしだれ桜に、京の春の豪華を聚め尽したかのように。

枝々は数知れぬ淡紅の璣瑤を下げ、地上には一片の落花も無い。

山の頂が明るむ。月がわずかに覗き出る。

丸い大きな月。静かに古代紫の空に浮び上る。

花はいま月を見上げる。月も花を見る。

桜樹を巡る地上のすべて、ぼんぼりの灯、篝火の焰、

人々の雑踏、それらは跡かたもなく消え去って、月と花だけの天地となる。

これを巡り合せというのだろうか。

これをいのちというのだろうか。

この文章を読むと、少し肌寒い春の宵に、酔客がそぞろ歩く円山公園で、しだれ桜を見上げている自分の姿を想像してしまします。そればかりではなく、そこに息づく自然と人の営みの大切さをあらためて気づかされます。

この時期、京都はどこへ行っても桜が見られます。加茂街道や賀茂川堤（高野川と



四季を読む ——京洛の春——

の合流点までを賀茂川、それより南を鴨川と書く）を歩いても、両岸に満開の花を見ることが出来ますし、神社仏閣の境内にも樹齢何百年という桜があります。

それに「御室の桜は遅咲き」などといわれ、秋里離島の『都名所図会』巻之六の御室仁和寺の項にも、

それ当山は佳境にして、むかしより桜多し。

山岳近ければ、つねにあらはげしく、枝葉もまれて樹高からず、屈曲ためたるがごとし。

などと書かれているように、同じ京都市内であっても、品種の違いや寒暖の差によっても開花の時期が異なるので、必然的に見頃も変わります。

桜をめぐるだけではなく、名所旧跡を訪ねるにも、まずは歩いてみることで、京都の町を一層身近に感じることが出来ます。そして、それが自分だけの大切な場所を見つけることにもつながります。学生時代を過ごした記念にお気に入りのスポットを、一つくらい持っていてよいのではないのでしょうか。

この東山魁夷氏の『京洛四季』には春夏秋冬の風景や街並みが描かれ、そのあとに続く文章にも、氏の芸術家としての感性が光っています。京都を散策する前に読んでほしいし、あるいは記憶をたどる旅のよすがとしてもいい、そんな一冊です。

*このページで紹介した本

①東山魁夷著『東山魁夷小画集 京洛四季』

（一九八三年・新潮文庫）

②市古夏生・鈴木健一校訂

『新訂都名所図会』第一、五巻

（一九九九年・ちくま学芸文庫）

読んだら、面白かった！ サマセット・モーム（龍口直太郎訳） 『コスモポリタンス』



この本を初めて手にしたのは、今から三十年以上前のこと。すでに『人間の絆』や『月と六ペンス』といったモームの作品は読んでいたが、これはタイトルが気に入って買ったのだ。収録されている短編小説が掲載されていたアメリカの雑誌『コスモポリタン』の名前を知っていたから、それで興味を持ったのだけれども、まだ二十歳になるかならずでは、この本の面白さがわからなかったのは無理もないと思う。

その後歳月を経て、いくたびかビターな人生経験を積んできたいま、図書館でこの本に出会って、もう一度読んでみる気になった。するとモームが序文でいつている「小説家は自分の個人的な世界観を読者に与えるためのものであり、知性的な娯楽を提供するものである。そして、娯楽というものについて先ず第一に要求すべきことは、ひとを楽しませることなのだ」という意味がよくわかった。

この稿は、作品の解説や作家の紹介をするのが目的ではないから、きわめて気楽に自分の思ったことを書くことにする。この本に収められている二九

篇の短編小説は、モーム自身がいうように、全部読むと退屈するかもしれないし、気負いこむとなかなか読めないと思ったから、帰宅する電車のなかで、自分が読んでみたいタイトルの二篇を読んでみた。それも序文にある「折にふれて、一つか二つお読みになれば、ちよど『コスモポリタン』誌の読者諸君が、毎月一回ぐらいの割合で同誌に現われたこれらの物語を読んで感じたと同じ程度のよろこびは感じられるのではないかと思っている」の勧めにしたがったのである。

その二篇とは、「異国の土」と「ランチ」である。これから読む方々のために、ここでは、あらすじなどは書かないがページを繰るのももどかしいぐらい、グングン引き込まれてしまったというのが実感だ。「異国の土」は、作家がトルコで出会った宿屋を営む老婦人とのやりとりを描いている。その結末を読んだとき、苦笑している自分に気がついた。これは読む人それぞれに、その時の表情が変わるのだろうと感じた。

「ランチ」は、作家が貧乏していた頃に、女優をランチに誘って、財布の中身を気にしながら見栄を張る話。こんな女優と同じような女性に会ったことがあるなあと、自分の記憶をたどりつつ、ニヤニヤしながら（電車の中ではちよつとマズイが）、その会話を映像に置きかえて楽しませてもらった。モームのいう、まさに娯楽がそこにあった。「読んだら 面白かった」の一言に尽きる！

日本の文芸評論家がどこかで書いていたと思う

が、作家は長編よりも短編を読めば、その力量がわかるということ、あらためて教えてもらったような気がする。若いころに素通りしてしまった店先を、今になって足をとめて眺めてみて、そこにいい品物が置いてあったことに気づいた時のように、それと同じことが本との出会いにはあるようだ。

この本は、かつて「新潮文庫」から出ていて、モームの作品集はすべてピース紺と薄緑のツートンのカバーで統一されていた。なかなかセンスがよかった。その当時は二分冊されていたが、いまは「ちくま文庫」で二冊にまとめられているから、選んで読むにはちょうどいい。

ついでに個人的な感想ではあるが、龍口直太郎の訳も古い、それなりにいいものだと思う。この人の訳で、同じモームの『アシエンデ』やカポーティの『ティファニーで朝食を』を読んだことも、いまや懐かしい思い出である。

ある専門家の言によれば、古い翻訳のなかには、訳者の技量が未熟で十分に訳しきれていない部分もあるということなので、それを聞いてしまうと、ちよつと退いてしまふ。しかし、この作品についていえば、訳が古いからといって、読み物としての娯楽性には影響していないし、面白さが半減するものではないと思う。

最後に、この作品たちが執筆されたのが、「一九二四～一九二九年である」ことを考えあわせると、九十年近くたって色あせないことに感謝しなければならない……。

開館カレンダー

【開館時間】 9：00 ～ 20：00

● 9：00 ～ 17：00

4月

● 1 (日)
● 2 (月)
● 3 (火)
● 4 (水)
● 5 (木)
● 6 (金)
7 (土)
8 (日) 休館日
9 (月)
10 (火)
11 (水)
12 (木)
13 (金)
14 (土)
15 (日) 休館日
16 (月)
17 (火)
18 (水)
19 (木)
20 (金)
21 (土)
● 22 (日)
23 (月)
24 (火)
25 (水)
26 (木)
27 (金)
28 (土)
29 (日) 休館日
30 (月) 休館日

5月

● 1 (火)
● 2 (水)
3 (木)
4 (金)
5 (土)
● 6 (日)
7 (月)
8 (火)
9 (水)
10 (木)
11 (金)
12 (土)
13 (日) 休館日
14 (月)
15 (火)
16 (水)
17 (木)
18 (金)
19 (土)
20 (日)
21 (月)
22 (火)
23 (水)
24 (木)
25 (金)
26 (土)
27 (日)
28 (月)
29 (火)
30 (水)
31 (木) 休館日

6月

1 (金)
2 (土)
3 (日)
4 (月)
5 (火)
6 (水)
7 (木)
8 (金)
9 (土)
10 (日)
11 (月)
12 (火)
13 (水)
14 (木)
15 (金)
16 (土)
17 (日)
18 (月)
19 (火)
20 (水)
21 (木)
22 (金)
23 (土)
24 (日)
25 (月)
26 (火)
27 (水)
28 (木)
29 (金) 休館日
30 (土)

※予定が変更される場合があります。図書館ホームページも参照してください。

後記

新しい年度をむかえ、図書館広報誌としての『Lynzo』も vol.7 となりました。OPAC やポータルサイトの利用方法は『図書館利用案内』2012 版に収録しましたので、その分『Lynzo』に新企画をたくさん用意しました。みなさんにますます親しんでいただける冊子を目指します。



季刊『Lynzo』vol.7

平成 24 年 4 月 1 日発行
編集・発行 佛教大学図書館
〒 603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96
TEL 075-491-2141 (代) FAX 075-491-9042
<http://www.bukkyo-u.ac.jp/lib/index.html>

Pop up lib

ポップアップ リブ

特集コーナー

4月

京都をめぐる歴史と文学

佛教大学がある京都は、どんな町なのでしょう？ 春学期の始まりに合わせて、京都の歴史を学んでみるのも、いい機会かもしれません。大学の近くにも、有名な文学作品の舞台になった場所があったことに気づきます。歩くだけで新しい発見のある町、それが京都です。今回は京都市編『京都の歴史』をはじめ、川端康成の『古都』など京都を舞台にした文学作品などを展示貸出します。



5月

平氏一門の栄枯盛衰 —古代から中世へ—

今年の NHK 大河ドラマの主人公は「平清盛」。その平氏一門の栄枯盛衰は『平家物語』でも有名ですが、この時代は古代から中世への転換期でもありました。その歴史の流れのなかで、貴族から武家へどのように政治の実権が移っていったのでしょうか。今回は、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけての歴史を学ぶための概説書や、専門分野の論文集から史料までを展示貸出します。



6月

古事記と日本書紀

今年は太安万侶によって『古事記』が撰上されてから、1300 年になります。『古事記』は現存する最古の古典といわれ、その 8 年後に完成した『日本書紀』と合わせて、記紀とも略称されます。しかし、実際に『古事記』や『日本書紀』そのものを読んだ人は意外に少ないのでは？ 今回はこの記紀の原典をはじめとして、さまざまな角度から研究された専門書までを展示貸出します。



報告

叢書ユニベルシタスを整備しました

『Lynzo』vol.5 でもご紹介していました叢書ユニベルシタスの整備が、このほど完了しました。これは、教育後援会から平成 23 年度援助金のご支援をうけて整備したものです。この叢書については、現在も刊行中ですので継続して整備していきます。本シリーズは、各学部の研究領域を網羅するものですので、ぜひ活用してください。